

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1026 号	氏 名	本林 光雄
論文審査担当者	主 査 池田 修一 副 査 鈴木 龍雄 ・ 本田 孝行		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>B cell-activating factor (BAFF) は B 細胞のアポトーシスに対して抑制的に働き、様々な自己免疫疾患の病態に関連している。重症筋無力症 (MG) は神経筋接合部のアセチルコリン受容体 (AChR) に対する自己抗体の産生に基づく自己免疫疾患で、成人 MG では血清 BAFF 値が上昇することが報告されている。小児 MG は成人 MG と異なる臨床的な特徴があるものの、成人 MG との免疫学的背景の相違は明らかになっていない。小児眼筋型 MG (OMG) 患者における正確な病態の評価および合併症の少ない治療の開発に寄与することを目的として、血清 BAFF 値を含めた小児 OMG 患者の免疫学的プロフィールを解析した。</p> <p>1999 年 4 月から 2014 年 4 月までに信州大学医学部附属病院小児科を受診し、保護者から書面で同意が得られた小児を対象とした。①日内変動を有する眼筋の筋力低下を認める、②眼筋以外の筋力低下なし、③塩酸エドロホニウム試験陽性、④僧帽筋における反復刺激試験で M 波の減衰なし、の 4 項目を満たした患者を OMG と診断した。OMG 患者のうち免疫抑制療法 (IST) 開始前の患者を Pre-IST OMG 群 (9 名) とし、IST 後の患者を Post-IST OMG 群 (4 名) とした。炎症性疾患の合併がないてんかんおよび発達障害患者を対照とした (Control 群、20 名)。</p> <p>その結果、本林光雄は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">Pre-IST OMG 群の血清 BAFF 値は、Control 群に比べて統計学的に有意に高値であった。Post-IST OMG 群の血清 BAFF 値は、IST 前と比べて全例で低下し、統計学的に有意差を認めた。Pre-IST OMG 群の血清 BAFF 値と抗 AChR 抗体価との間には、統計学的に有意な正の相関を認めた。血清 IL-17A 値は、Pre-IST OMG 群と Control 群との間で有意差を認めなかった。 <p>これらの結果より、BAFF は小児 OMG 患者の病態に重要な役割を果たしており、血清 BAFF 値は病勢の有用な指標になると考えられた。一方、血清 IL-17A 値は Pre-IST OMG 群と Control 群との間で有意差はなく、小児 OMG の病態に関与していないと思われた。これは成人と異なる結果であり、小児と成人の違いに関連していることが示唆された。主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			